

有珠山

1 概況

火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

2 地震活動の状況

地震回数は1日あたり0~4回と平常時の状態で推移しました。震源はほとんどが山頂火口原直下の浅部(深さ1km前後)で発生しています。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震回数(A点)

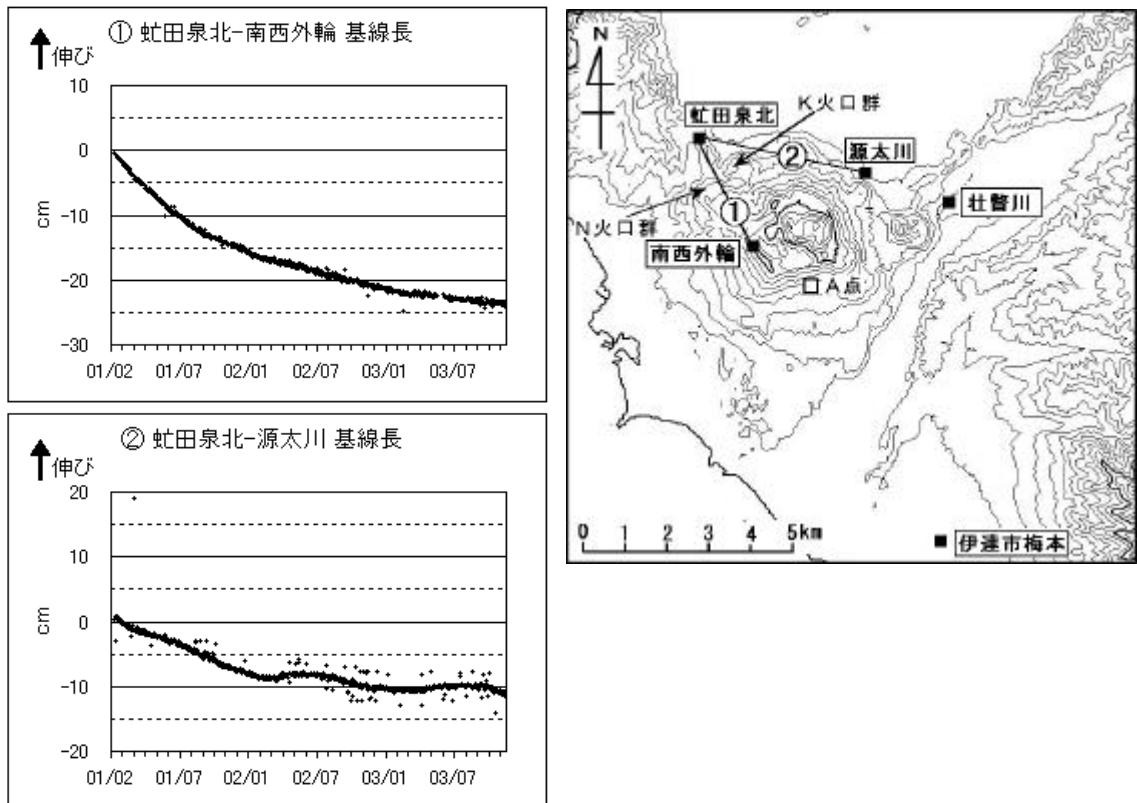
2002~2003年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
地震回数	24	22	29	21	28	17	21	31	17	18	13	20
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 噴煙活動の状況

西山西麓(N)火口群のN-B火口では、100m以下の弱い噴煙活動が続いています。金比羅山(K)火口群でも時折ごく弱い噴気が観測されました。その他の観測点では特に異常な変化はありませんでした。

4 地殻変動の状況

西山西麓を中心とする収縮傾向は鈍化しながらも続いています。



有珠山基線長変化(2001年2月9日~2003年11月31日)

5 調査観測の結果

11月15～19日に調査観測を実施しました。熱活動は全般的に大きな変化は見られませんでした。

【K 火口群】

火口壁からのごく弱い噴気活動が見られる程度で熱活動は低下した状態が続いています。

【N 火口群】

N-B 火口では火口縁の崩落が進んでおり、南～西側にかけての火口壁で噴気活動が継続しています。赤外放射温度計*で北東側火口縁(測定距離約80m)から測定した温度は約140(前回4月:約140)と引き続き高温を維持しています。

赤外熱映像装置*による観測でも熱異常域の拡大や新たな高温部は認められず大きな変化はありません。

【山頂火口原】

I 火口では、多数の噴気孔から弱い二酸化硫黄臭を伴う火山ガスが勢いよく噴出しています。噴気温度は約350(前回:約370)で高温の状態が続いていますが、長期的にはやや低下傾向にあります。

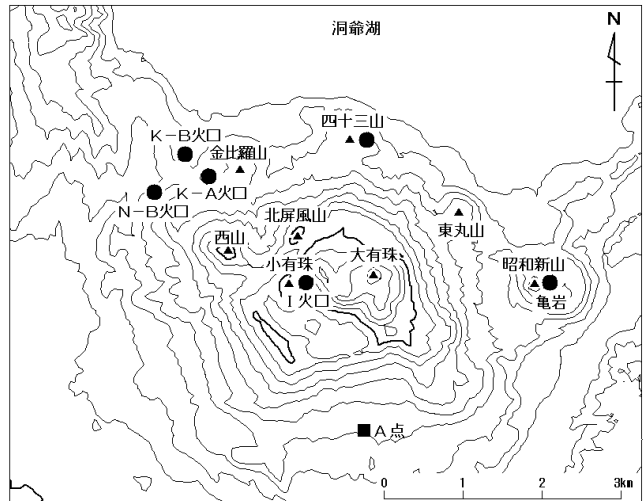
【昭和新山】

亀岩の噴気温度は約160(前回:150)、亀岩南側噴気帯は約230(前回:約270)と高温を維持していますが、長期的にはやや低下傾向にあり、噴気の勢いも弱い状態です。

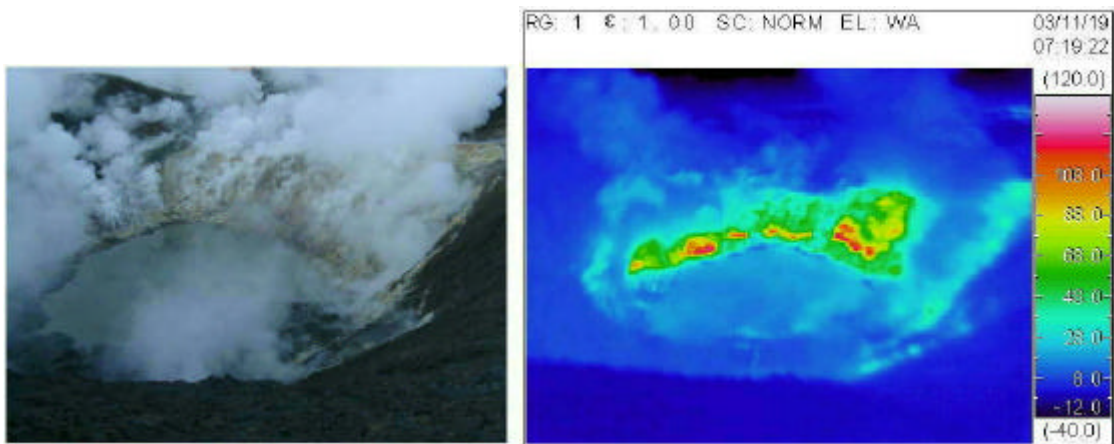
【四十三山】

南東斜面の噴気孔の温度は約50(前回:約50)で、弱い噴気の状態などに変化はありません。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、噴煙や霧で対象が見えにくい場合や、熱源から遠く離れるほど実際よりも温度が低く表示されます。

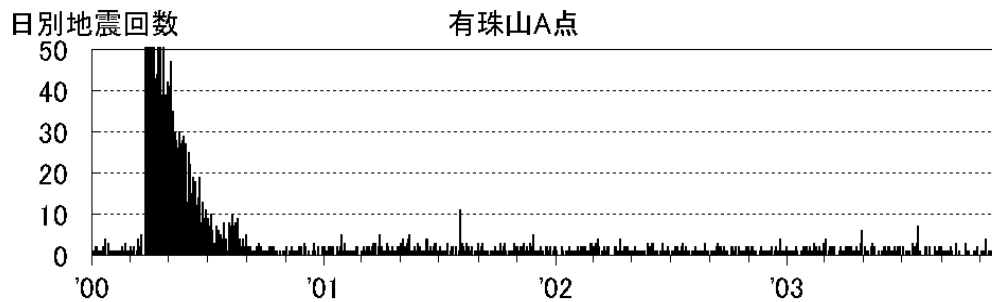
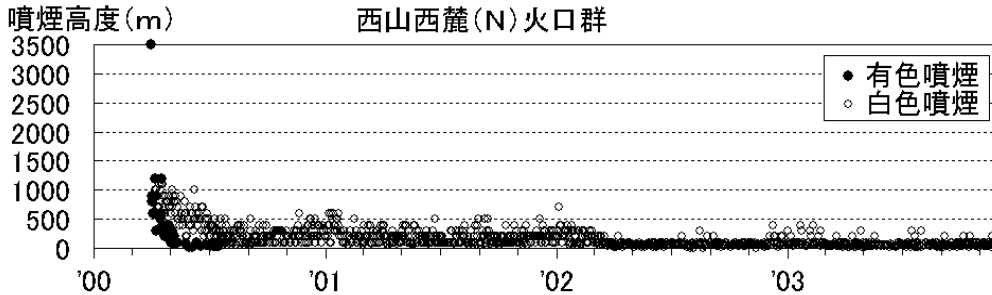
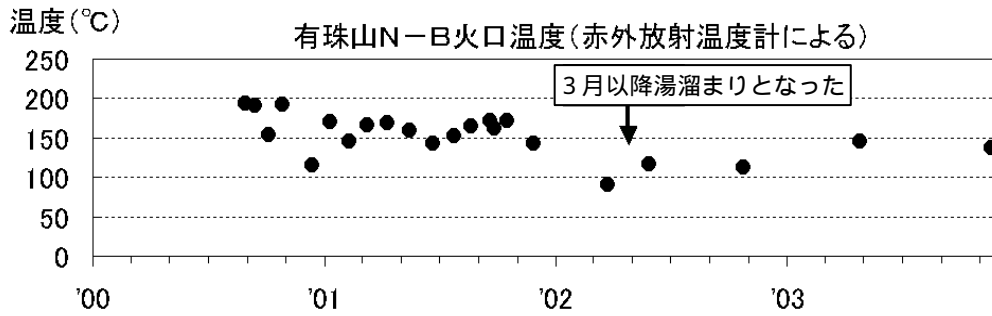


有珠山周辺図

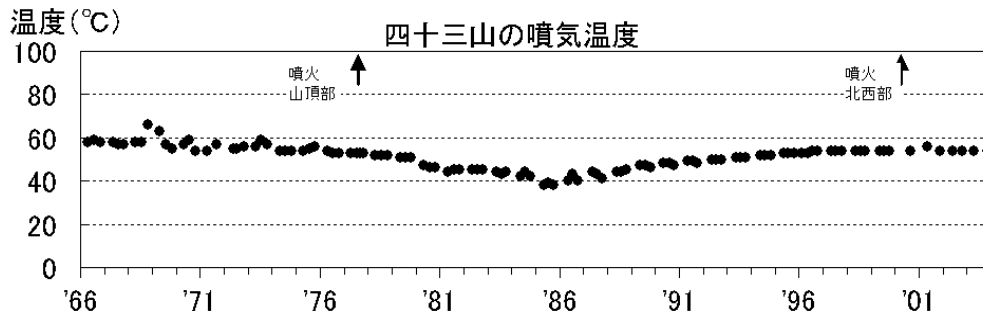
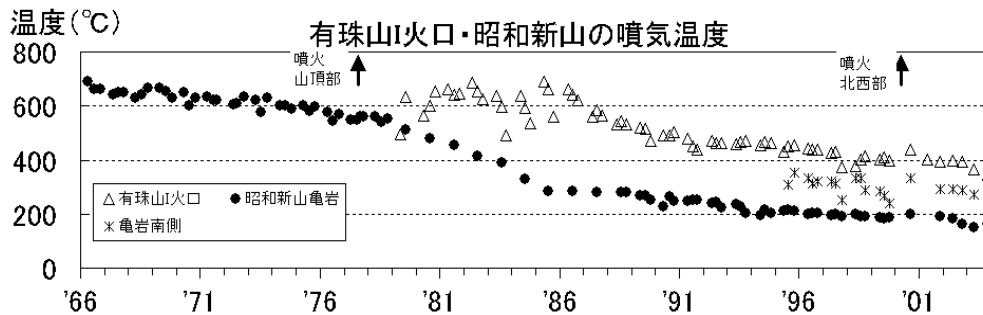


北東側火口縁から撮影した N-B 火口の表面温度分布(11月19日 測定距離:約80m)

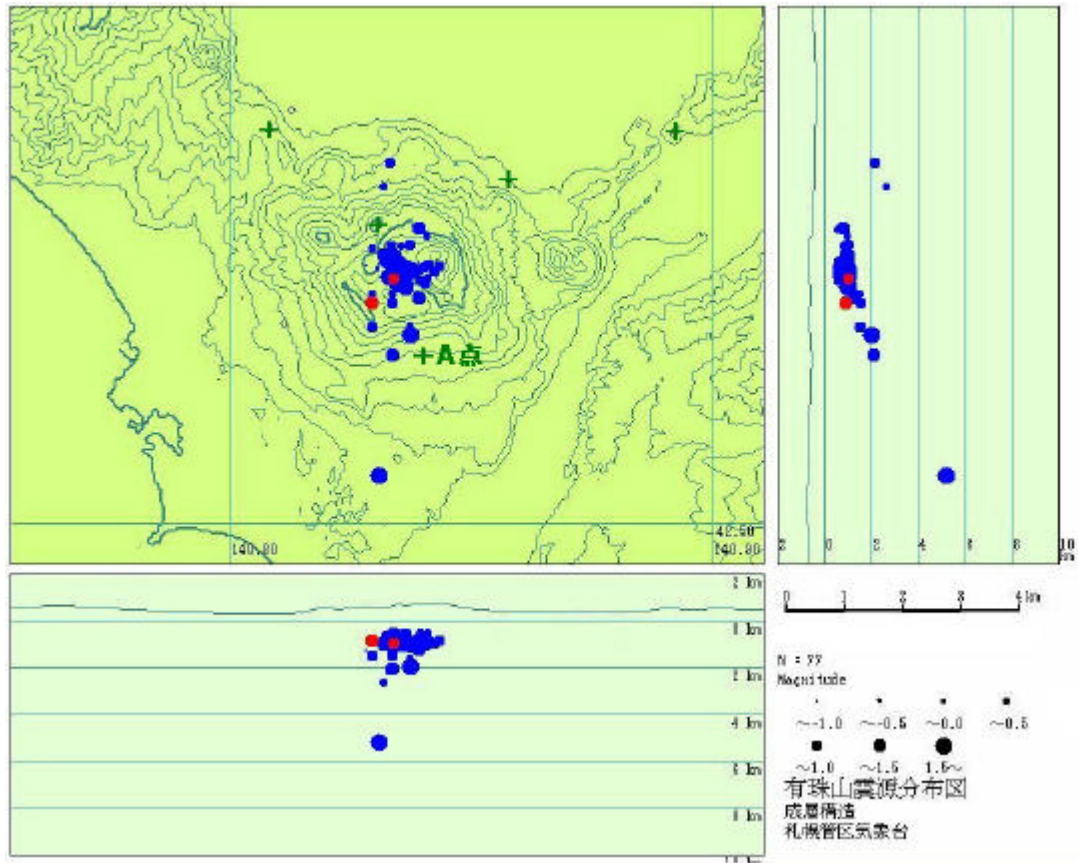
写真の壁面一帯に広がる変色域に対応して高温域が認められますが分布には前回から大きな変化はありません



有珠山火山活動経過図(日別、2000年1月1日~2003年11月30日)



有珠山噴気温度の推移(1966年1月~2003年11月)



有珠山震源分布図

+ 印は地震観測点

震源表示 赤：2003年11月1日～11月30日(今期間)

青：2002年11月1日～2003年10月31日(前期間までの1年間)

2002年以降の震源はほとんどが山頂部直下の海拔下0～2kmに集中して分布しており、今期間の活動もこの領域内で発生しています。2000年の噴火活動期に見られた南西山麓の深さ4～6kmの地震活動は、ほぼ停止しています。